

R5年度 中・高校生版機関紙 授業での活用例

★本機関紙は上下で構成が分かれております。国内外問わず、世界中で自然災害による甚大な被害が発生しています。自然災害と地球温暖化について知り、周りの人や世界の困っている人を思いやることの大切さを学ぶ機会に、本紙を道徳の授業や防災学習等でご活用、ご紹介ください。

《ねらい》

- ・バヌアツを例に、自然災害や気候変動の影響で拡大する被害について、原因を考えると共に自分に何ができるかを考える。
- ・1円玉募金がどのように役に立っているのか認識を促し、日頃の活動への意欲を増加させる。

《活用案》

- ① 機関紙の上半分を用いて、これらの自然災害がバヌアツでなぜ起きているのか。気候変動がもたらす自然災害の被害の拡大について考える。

大きな被害をもたらす自然災害 みんなの優しさでたすけあいのできるこ



自然の力は巨大です。防ぎようのない地震や津波、温暖化の影響で頻発する豪雨や台風、干ばつなど、世界では毎年いろいろな自然災害がおきています。そのなかでも、バヌアツ共和国は「自然災害に対して世界一脆弱な国」と言われています。

地球温暖化と自然災害

地球温暖化は、人類が生活をする上で発生する温室効果ガスの増加により地球の温度が上がることで、地球が温まると、海や陸の生態系に変化が生まれ、豪雨や干ばつといった自然災害の発生頻度が高まります。国際赤十字は、「気候と環境の危機は、人類の未来を脅かす人道上の危機である」とし、「人道団体のための気候・環境憲章」を採択しました。未来のためにできることだけでなく、今現在、地球温暖化の影響を受け困っている人々にも目を向け、1人1人が自分ごととして捉える必要があります。



例：地すべりや台風・豪雨・洪水の被害が拡大するのはなぜか。自然災害は気候変動の影響をなぜ受けるのか。

- ② 機関紙の下半分を用いて、自然災害に対して国内・国外問わず今の自分ができていることを考える。



みんなの想いを少しずつ集めてできること

1円玉募金で 海外支援

集めた募金は、日本赤十字社を通じ、バヌアツ赤十字社に届けられバヌアツの人々のために使われます。バヌアツの学校に救急セットを配備することができたり、子どもたちや地域の人が防災・減災の正しい知識を学ぶことができます。みんなの想いがカタチになってバヌアツとつながります。



救急法



学校に救急セットを配備



避難訓練



学校で防災・減災の正しい知識を学習

他にもできること



知る・学ぶ

伝える

国内でも、地震や津波、地すべり、洪水などの災害の報道で甚大な被害を目の当たりにします。もし、あなたの身近でおこったら・・・その時のために、いま何ができるでしょうか。必要な知識や技術を身につけ、自分自身で、または友達や家族と一緒にできることを考えてみましょう。

例：日本国内でも多くの自然災害がある。身近でこれらの災害が起きた時どうなるか考える。また、バヌアツの人たちのためには何ができるか考える。みんながお小遣いを少しずつ出して募金を集めれば、バヌアツの人たちが防災の正しい知識を身に付けることができ、災害が起きた時に安全に逃げるができる。

- ③ 今の学びや活動が、バヌアツの人の命を救い、災害時の周りの人の命を救う。自分にできることは微力だけど無力ではない。学び、伝え、行動しよう。